第50回講演大会工場見学記（その2）

(11月号1214頁よりつゞく)

第3班（国鉄苗穂工機部，北日本鋼機，月寒種羊場，月寒学院，林檎園）（昭30～10～3日 月曜日）

午前8時 30 分札幌駅前に集合．2,3 日つづいた雨も今朝はすつかり止んで文字通りに日本晴という恵まれた日和であつた．1行 16 名は指定のバスに乗車，国鉄苗穂工機部—北日本鋼機工業株式会社→月寒種羊場→月寒学院→林檎園の順に見学した．見学先では何れも懇切丁寧な御案内を受け益する所が極めて多く，また途中バスの車窓よりは澄み渡る秋空の下，藻岩，テイネの山々を始め札幌効外の印象的な風景を満喫した．

国鉄苗穂工機部

午前9時バスは工機部に到着した．工場次長さんより一般説明があつた．この作業所は北海道総支配人の指揮下にあり本庁の工作局と業務上最も密接な附係がある．工機部の組織は工場長の下に本場(事務関係)と職場（現場関係）とがあり本場，職場何れも専門の掛りに分れており総員 2445 名である．また作業内容については全作業量の 70% が蒸気機関車関係でその他が貨車，バス等の修理である．機関車は修理の形式によつて異なるが大修理は3年に1回工場にて全分解を行い修理する．その期間は 7·5 日費用は約 270 万円である．貨車は5年～1年に1回修理を行い，期間は 84 時間，費用は 10 万円程度である．

お話がすんだ後一同は電機職場—鋳物—製罐—鍛冶—旋盤—仕上の順に工場見学をした．

十数台の機関車が盛んに分解修理されており更に完成した機関車の試運転中のものもあつた．電機職場は電力関係の外 Compressure (200HP, 150HP, 75HP) Boiler (10 kg/cm² 3 罐，20 kg/cm² 1 罐) 等を担当している．鋳物職場には 3·5t Cupola と小型電弧炉とがあり年間鋳鉄 3000t 鋳鋼 260t, 非鉄 550t の製品を出している．製罐職場は大部分機関車の Boiler 関係の仕事であつた．鍛冶職場には小型ハンマーが多数稼動していた．旋盤仕上職場では何れも機関車，貨車等に特有な品物の加工が行われていた．従業員は何れも熱心に作業に従事し修理検査等の工事は計画的にスムーズに流れていると思われた．

最後に 1884 年米国フィラデルフィヤポーター社製の機関車「静号」を見学した．義径弁慶号と共に北海道開拓の先駆者として活躍したものである由．9時45分御多忙中を種々御世話御案内下された係の方々に謝意を表して工機部を辞した．

北日本鋼機工業株式会社

工機部を後にしばし沿道の景色に気を取られている間にバスは北日本鋼機工業会社に到着した．当社は昭和21年の創立で製品は釘類，鉄線類，タイヤー，チェン等である．製品の販路は道内を始めとし本州，その他遠く海外にまでおよんでおり国の内外に亘つて開発用，復興用として需要がありその真価を認められているとのことである．佐藤専務さんの一般説明があつた後工場を見学した．

まず製釘工場で丸釘の製造状況を見学した．最近新鋭高速度自動製釘機 12 台を増設し，約 50 台の機械があり月産 220t を超えている．製釘機は設計回転数より約 20% さげて使用しているがこれにより故障の絶無を期し能率はかえつて非常に上つている．伸線工場には高速度連続伸線機，単式縦型伸線機ダイス修正装置等があり，伸線機は故障が少いので設計回転数よりも高くして操業している．鉄線は 5·5mm 線材より 4mm 或いは 0·8mm まで中間焼鈍なしで伸線している．鉄線の仕上焼鈍は鉄クロムリボンの電気炉で行つている．焼鈍温度は 780°C，線の通過速度は 4·5m/mn～7·0m/mn 程度である．各製造工程とも極めて順調に能率的に行われていた．

タイヤチェンは自動車やオート三輪が雪中で使用されるため必要なものであり，このチェンは磨耗を防止するため Case hard により表面は C 0·6% 程度まであげ Shore 硬度 65 位としてある．北海道の自動車は合計約 38000 台でこれらの車が使用するチェンは相当量に上る．当社は現在その1部分を生産しているので将来企業としては興味ある分野であると説明された．幹部以下一作業員に至るまで能率の向上，生産原価の低下ということに真剣に取組んでおられることがお話の折々に，また工場の所々にうかがわれた．

午前 11 時工場幹部の方の御配慮に感謝して同社を後にした．

月寒種羊場

11時20分月寒種羊場に到着した．ここは北海道農事試験場畜産部の1部で係の方のお話では種羊場は 1100 町歩の面積をもつているが現在 700 町歩を駐留軍に使用され僅か 400 町歩を使用している．羊約 500 頭の外，フォルスタイン，馬，ヌートリヤ等が多数飼育されている．広々と一面牧草の緑を以ておおわれた起伏ゆるやかな丘に秋の日ざしを受けながら無心に遊ぶ羊群の様はバス案内嬢の説明の如く全く一幅の名画を思わせるもので北海道情緒豊かなものがあつた．11時40分何時までも飽かぬ眺めに別れをおしみつつ案内係の方に謝意を表して牧場を後にした．

月寒学院，林檎園

時間がなくなつたので車上より眺めつつ説明をきいた．月寒学院は農業牧畜関係の技能者を教育する処であり，ここの卒業生は今日多数各方面の重要な配置で活躍しているとのことであつた．牧場の小高い丘の上で汗吉思干鍋をいただいた．一同蒙古の草原を思い浮べつつこの珍味を賞美した．北日本鋼機工業会社より費用の1部を助成していただいた由厚く御礼を申上げる．

昼食後林檎園を見学した．リンゴ，ブドウ等が色あざやかに実つていた．係の方より果樹の栽培法等についてお話があつた．また2,3日前の台風にて可成り被害があつた模様であつた．

一同各々北日本鋼機工業会社提供の林檎1かごをいただき案内の方に謝意を表して帰路についた．途中札幌市内の説明や北海道民謡等について案内嬢の心尽のサービスがあつた．午後2時40分終点札幌駅に到着し，この有益な見学旅行を終つた．（小池与作）